



〇年にわたる
トロイア戦争は
ギリシア軍の勝利に
終わりました。
しかしギリシアの知将
オデュッセウスは
故郷に帰るまで、
さらに二〇年の年月を
つらい航海のなかで
過ごすなければなりません。
いっぽうトロイア王族のひとり
アイネイアスは
燃えるトロイアから
父や息子たちと脱出し、
第二のトロイアを築くため
果てしない大海原へと
乗り出していきます。

10



ふたりの冒険家 の大航海

ギリシァ神話

監修 吉田敦彦
学習院大学教授



まんがギリシア神話 第10巻

ふたりの冒険家の大航海

監修／吉田敦彦（学習院大学教授）

指導協力／藤井常義（サンシャインプラネタリウム館長）

シナリオ／亜仁真 作画／石原しゅん

作画協力／手塚プロダクション

カバーイラスト／クリエイティブアートルリュウ

装丁・本文レイアウト／海野幸裕

図版／E D社

写真協力／ギリシア政府観光局

サンセット

美宝社

ワールドフォト・サービス

編集協力／株式会社 童夢

1992年8月31日 初版発行

定価2000円（本体1942円）送料310円

発行所／株式会社 きょうせい

本社／〒104東京都中央区銀座7-4-12

営業所／〒162東京都新宿区西五軒町4-2

電話 03-3268-2141（大代表）

振替口座 東京4-10,000番

印刷／凸版印刷株式会社

製本／大口製本印刷株式会社

©1992 Printed in Japan

ISBN4-324-02835-4

(3100319-01-010)

乱丁・落丁本はおとりかいたします。



◆キルケ／バツサロ
アイアイア島に住む魔女キルケは、島を訪れる人を魔法で動物に変え、自分のペットにしています。ギリシアの知将オデ

ュッセウスも故郷に帰る途中、この島に立ち寄りますが、ヘルメス神の助けを借り、彼女の魔法からのがれるのです。



◆オデュッセウス譚／ヒントウ
リックオ
オデュッセウスの妻ペネロペは、オデュッセウスの帰国を信じ、だれとも結婚しようとはしませんでした。しかし毎日のようにおしかける求婚者たちは、彼女に結婚をせまります。困り果てたペネロペは、一計を案じ、父のための織物を作り終わったら、だれかと結婚しようと言いました。しかし彼女は、夜ごとそれをほぐしていたのです。

◆目をつぶされるポリュペモス
ひとつ目の巨人ポリュペモスは、自分の洞窟へやってきたオデュッセウスたちを閉じこめ、彼らをひとりずつ食べてしまいます。このままでは全滅してしまふと考えたオデュッセウスは、ポリュペモスがねているすきをねらい、彼の目を大きな丸太でつぶし、この危機を乗りこえました。しかしこのことは、ポリュペモスの父・海神ポセイドンを怒らせることになってしまったのです。



◆オデュッセウスとセイレン

歌声で旅人をよび寄せては殺すセイレンは、上半身が美しい女性で、下半身が鳥の怪物です。オデュッセウス一行は、彼女たちにもどわされないように、耳をろうでふさぎ、セイレンのいる所を無事通り過ぎました。しかしたひとり、好奇心旺盛のオデュッセウスだけは、耳せんをせず、マストに自分の体をしばりつけて、彼女たちの歌を聞くのです。

神話と美術



◆冥府の河／バテニール
ギリシアの知将オデュッセウスも、トロイアの王族アイネイアスも、死者の国・冥界に行つて、彼らの冒険に対する予言を聞きます。この絵画は、その冥界を流れる河をえがいたもので、死者はこの河をわたつて冥界に入ると伝えられています。





◆トロイアの災難について
デイドに語るアイネアス／ゲラン
トロイア王族のひとりアイネアスは、仲間を連れてギリシアに攻め落とされたトロイアから逃げ、カルタゴにたどりつきます。彼らはカルタゴの女王デイドの歓待を受け、そこに滞在します。そのうちにアイネアスとデイドは、恋に落ちていくのでした。



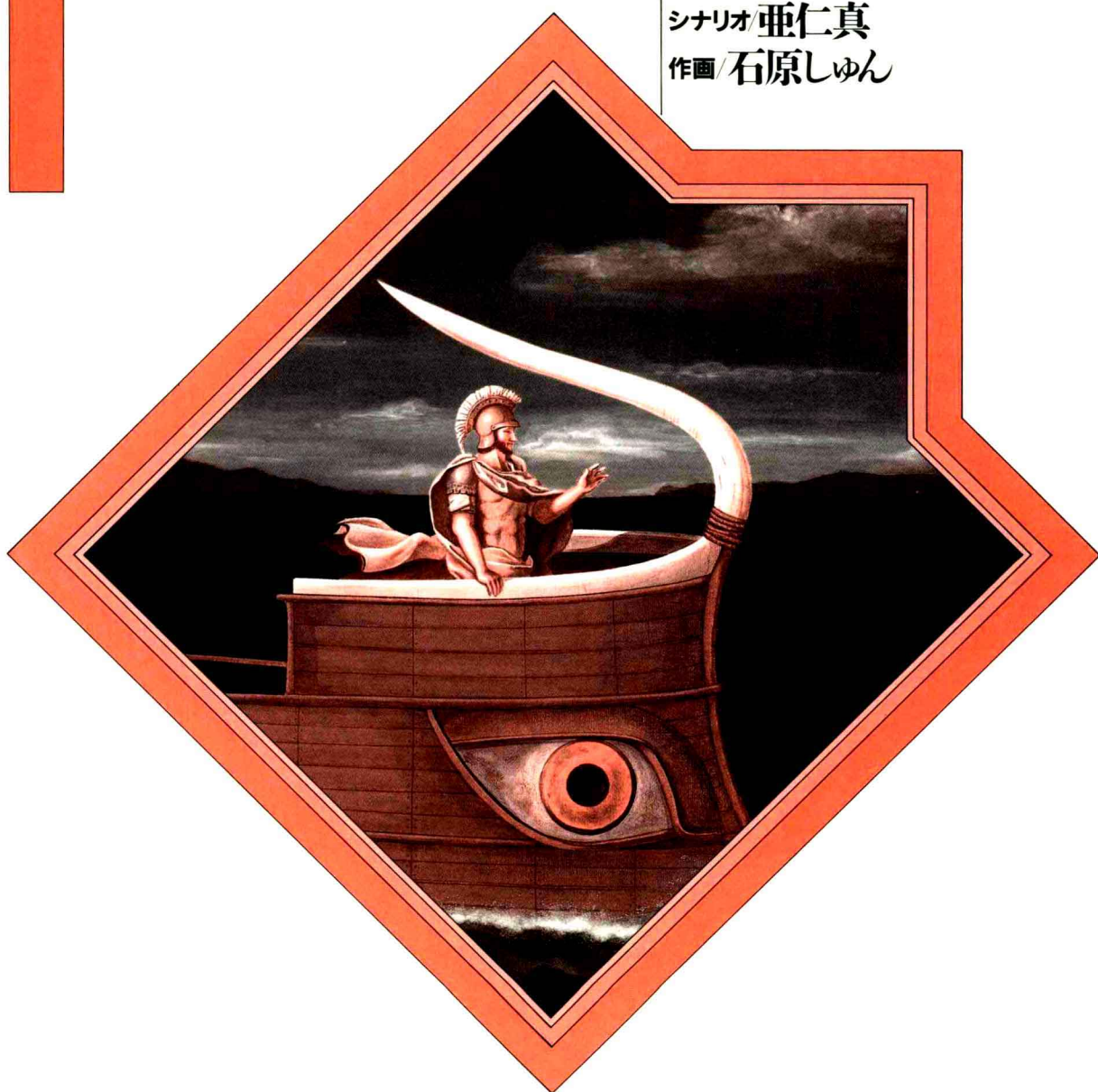
◆アイネアスとアンキセス
アイネアスは父アンキセスを連れ、燃えるトロイアから脱出しました。アンキセスはその後シチリア島で死にますが、彼の予言は、イタリア半島に新都市を築こうとするアイネアスに、大きな力をあたえるのです。

まんが ギリシア神話

10

ふたりの冒険家の
大航海

シナリオ/亜仁真
作画/石原しゅん



はじめに

ギリシア神話とか、ギリシア・ローマ神話とよばれている、たくさんのおもしろい物語があることを、あなた方は、きっともう、どこかで聞か読まかしてごぞんじでしょう。黄金の光でまぶしくかがやく美青年のアポロン神や、海に浮かぶあわのなかで誕生した美の女神アフロディテなど、多くの神様たち、また、怪力で乱暴なところもあるヘラクレスや、勇猛果敢なアキレウスなど、大勢の英雄たちが出てきて、さまざまな不思議な冒険や恋、戦争などで活躍をします。そしてこれらの物語のもとになった話は、今から二〇〇〇年以上も前に、古代のギリシア人が語っていたものでした。

今から二四〇〇年から二五〇〇年くらい前に、ギリシア人たちは、文学や美術をはじめとする学問や、技術など、すべての点で今のヨーロッパやアメリカの文化のもとになった、本当にすばらしい文化を作り上げました。それを、「ギリシアの奇跡」とよんだ人もいます。

この古代ギリシア文化は、今から二三〇〇年くらい前に、有名なアレクサンドロス大王がした遠征によって、今のトルコやエジプト、イスラエル、シリア、レバノンから、イラク、イラン、アフガニスタン、パキスタンなどにまでまたがる、広い地域に伝えられました。そしてその文化は、今から二〇〇〇年くらい前にローマ帝国を作った、古代のローマ人たちにも、そっくりそのまま受けつがれたのです。

古代のローマ人が使っていた言葉は、ラテン語といって、ギリシア語とは別の言葉でした。しかしローマ人たちは、ギリシアの文化

のすばらしさにあこがれて、その魅力のとりこになりました。そしてローマ人たちは、美術や文学、哲学やそのほかの学問でもギリシアのものを模範と考えたのです。さらにローマ人たちは、ギリシア人が持っていた神話も、ただ神様などの名前の大部分を、ギリシア語からラテン語の呼び方に変えたただで、そっくりそのまま自分たちのものにしてしまったのです。

このようにローマ人によっても、自分たちの神話だと考えられ、ギリシア語だけでなく、ラテン語でも語られるようになった、古代ギリシア人の神話のことを、ギリシア・ローマ神話とよんでいるのです。そのため、そのなかでは、ちょっとやっかいなことですが、多くの神様や英雄たちは、ギリシア語とラテン語のふた通りの、別の名前を持っています。本書で使っているのは、全部、もとのギリシア語の名前のほうです。

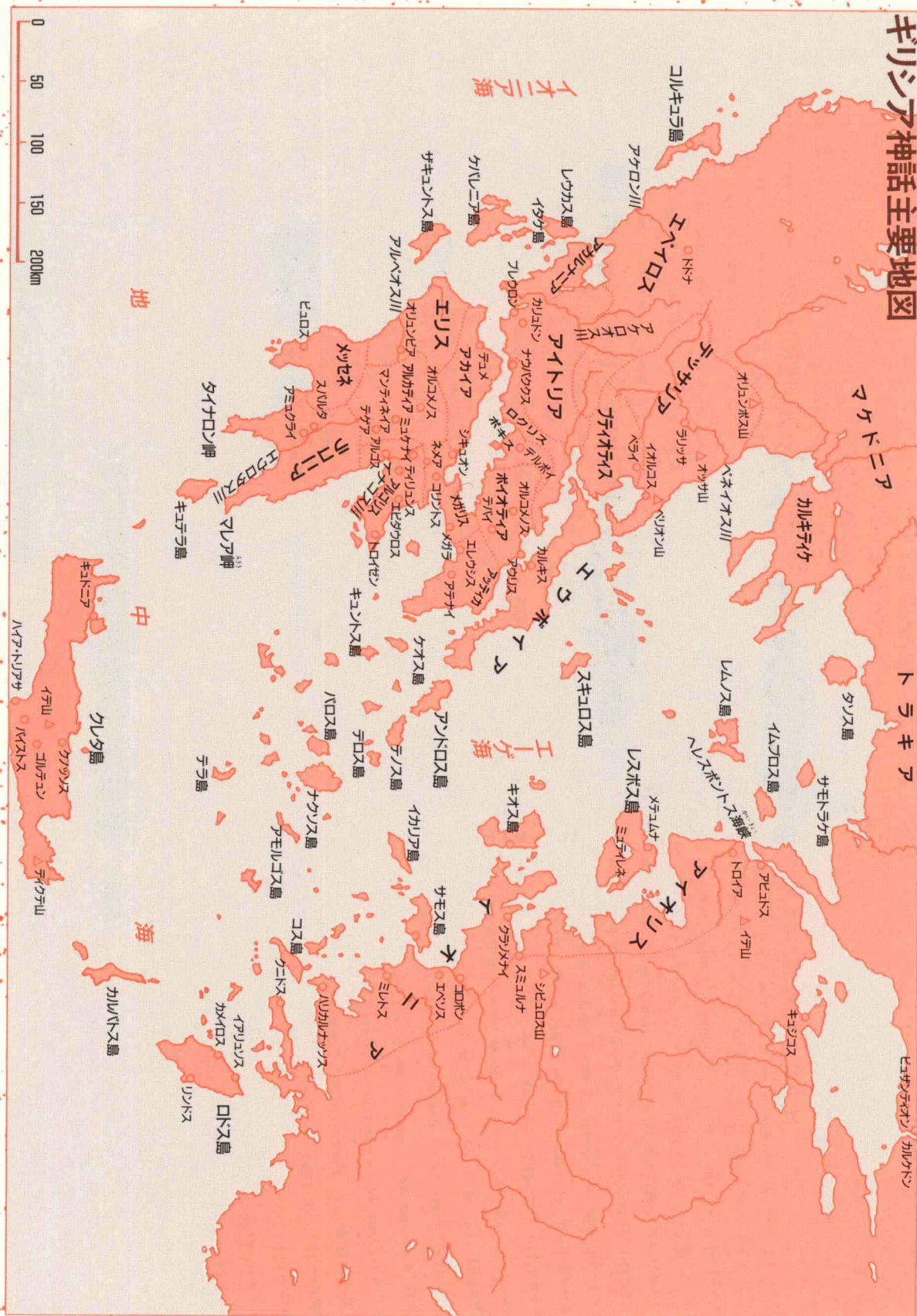
ギリシア・ローマ神話は、その後ヨーロッパの文化のなかにも、受けつがれました。ヨーロッパやアメリカの人たちは、今でもギリシア・ローマ神話を、キリスト教と共に自分たちの文化の土台になった、とても貴重な財産と考えて、大切にしています。

美術をはじめ、文学や音楽あるいは映画など、芸術のどの分野でも、ギリシア・ローマ神話を新しくえがいたり、物語ったり、またそれからヒントを得たりした作品が、ヨーロッパでは昔から多く作られています。そして下じきにされたギリシア・ローマ神話の物語を知らないままで、これらの名画や名曲、名作を鑑賞しようとすると、わたしたちはしばしば、それこそまるで、くつの上から足のかゆいところをかいているような、物足りなさともどかしさを、感じさせられてしまいます。

それだけではありません。一九六九年に初めて人間を乗せて月に着陸したロケットの名前が、アポロ一号だったことを、ごぞんじの人も多いでしょう。この名前はもちろん、初めにあげたハンサムな光と芸術の神、アポロンにちなんでつけられたものです。アメリカやヨーロッパで作られる品物には、このほかにも、乗り物や兵器から日用品にいたるまで、ギリシア・ローマ神話の神様や英雄の名前をつけられたものが、たくさんあります。これはもちろん、ヨーロッパやアメリカでは今でも、そのような名前のついた品物が、だれにでも自然に、神話の神様や英雄のようにすばらしく魅力的であったり、強力であるように感じられてしまうからであるにちがいません。このことから、ギリシア・ローマ神話が今もヨーロッパやアメリカの人たちにとっても愛され、自分たちの神話として大切にされて、本当になじみの深いものであり続けていることが、よくわかります。

こうしたことから、ヨーロッパやアメリカの人たちの文化と、ものの考え方をよく理解しようとする、わたしたちはどうしてもギリシア・ローマ神話を知る必要があるのです。この本は物語をよりわかりやすくするために、「まんが」という形式をとりました。話を視覚化することによって、おとだけでなく、小・中学生にも入りこみやすいものになっています。さらに本書は、ギリシア神話をくわしく正確に見せ、語っており、信頼できる手引きとなっています。これを持って、すばらしい未知の世界発見の旅に出て、ギリシア神話通になってください。

ギリシア神話主要地図



ふたりの冒険家の大航海
目次

神話と美術

1

はじめに

6

第二章 オデュッセウスの冒険
(前編)

12

第二章 オデュッセウスの冒険
(後編)

70

コラム 魔女たち

78

テレマコスの旅

97

第二章

ローマ建国の祖アイネイアス(前編)

カルタゴ

143

114

第四章

ローマ建国の祖アイネイアス(後編)

ローマの建国神話

188

152

神話と文学

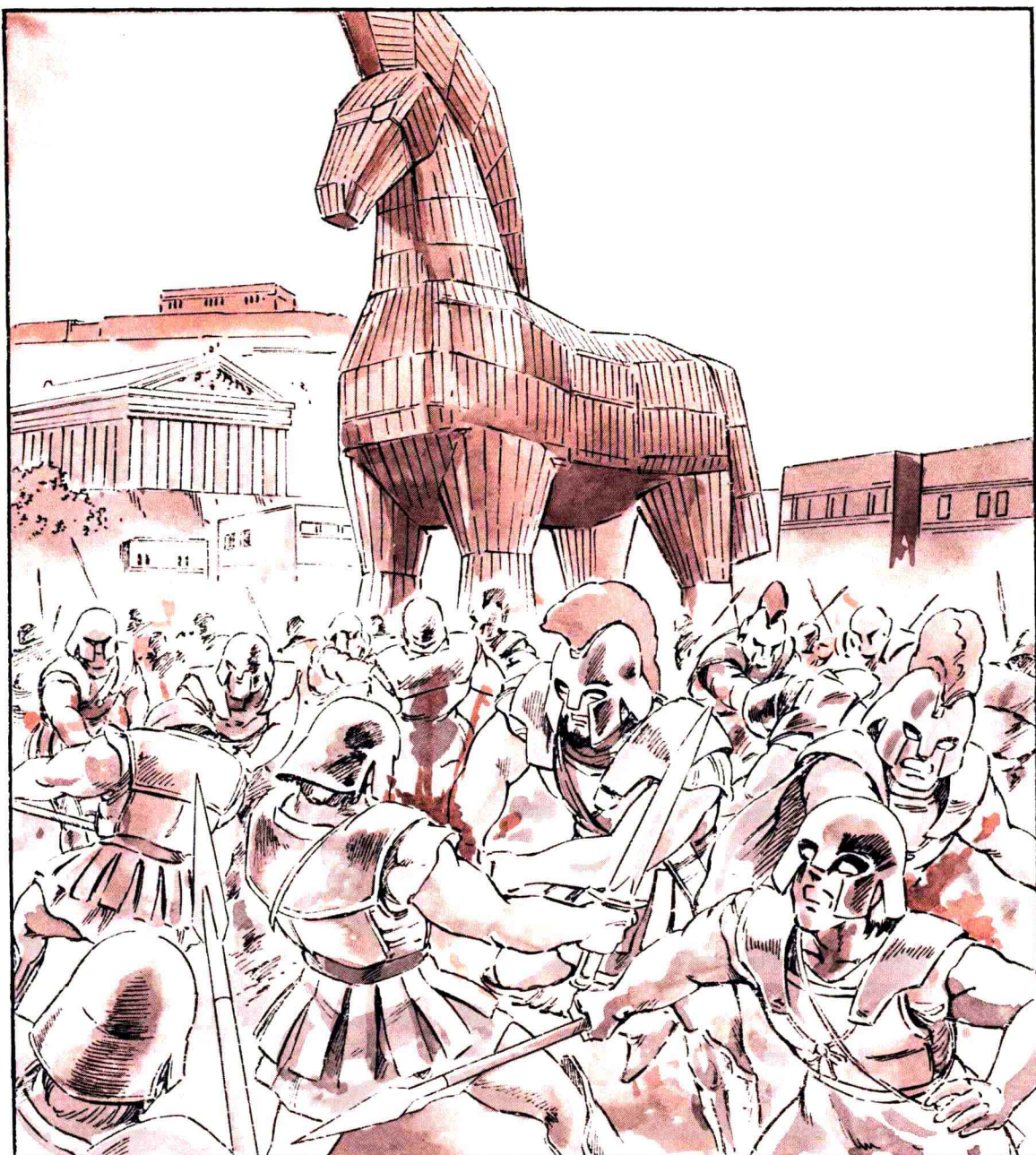
190

神話と遺跡

194

第1章

オデュッセウスの冒険(前編)



◇トロイア 小アジア(地中海と黒海にはさまれた、現在のトルコの一地域)の西北端にあった都市。

ギリシアとトロイアの
あいだで一〇年にわたって
戦われたトロイア戦争は
ギリシア軍の勝利に
終わりました。



なかでもイタカ島の王
オデュッセウスの活躍は
目ざましいものでした。



◇イタカ島
イオニア海（地中海中部の一海域）東部にある島。イタケ島ともいいます。

○ 陥落 攻め落とされること。

トロイアの陥落のあと
オデュッセウスもようやく
一〇年ぶりに故郷のイタカ島へと
帰国することになりました。

ありがとう
オデュッセウス、
元気だな。



ペネロペ、わが妻よ…
ようやく帰れる、
もう少し待って
いておくれ。

